

論点7 資本取引、決算振替、訂正・修正事項等に関する仕訳

- 1 店主が私用のため、現金¥100,000を引き出した。
- 2 店主が私用のため、原価¥5,000の商品を使った。
- 3 店舗の火災保険料¥240,000と店主の生命保険料¥100,000を現金で支払った。
- 4 企業主が、事業拡張のため、現金¥2,000,000を追加元入れした。
- 5 水道光熱費¥12,000を現金で支払った。このうち、家計の負担すべき割合は4割である。
- 6 決算に際し、次の収益の諸勘定残高を損益勘定に振り替えた。
売上 ¥1,230,000 受取利息 ¥200,000 受取手数料 ¥45,000
- 7 決算に際し、次の費用の諸勘定残高を損益勘定に振り替えた。
仕入 ¥550,000 給料 ¥400,000 雑費 ¥25,000
- 8 上記6、7振替後における損益勘定の残高を資本金勘定に振り替えた。
- 9 決算の結果、当期純利益¥345,000を計上した。
- 10 決算の結果、当期純損失¥100,000を計上した。
- 11 決算にあたり、損益勘定の貸方合計は¥1,230,000、借方合計は¥987,000であった。当期純利益（純損失）を計上する。
- 12 決算にあたり、引出金勘定の残高¥200,000を資本金勘定に振り替えた。
- 13 得意先長久手商会に対し、商品¥230,000を掛売りした際、貸借反対に仕訳していたことが判明したので、これを訂正する。
- 14 得意先長久手商会に対し、商品¥230,000を掛売りした際、貸借反対に¥23,000で仕訳していたことが判明したので、これを訂正する。
- 15 得意先長久手商会に対し、商品¥230,000を掛売りした際、借方勘定科目を未収金と仕訳していたことが判明したので、これを訂正する。
- 16 得意先長久手商会に対し、商品¥230,000を掛売りした際、貸方勘定科目を仕入と仕訳していたことが判明したので、これを訂正する。
- 17 得意先から掛代金¥40,000を現金で回収した際、誤って借方科目を当座預金と仕訳していたことが判明したので、これを訂正する。
- 18 東郷中央郵便局から切手¥1,000分と収入印紙¥5,000分を購入した際、誤って全額通信費勘定で処理していたことが判明したので、これを訂正する。
- 19 得意先から売掛金¥700,000を同店振り出し、当店宛の約束手形で回収した取引を誤って貸借反対に仕訳していたことが判明したため、これを訂正する。
- 20 決算にあたり、金庫の中を調べたところ、所有している日進産業株式会社社債に対する期限到来済みの利札¥40,000（未記帳）が見つかった。